

コウライトモエソウ

Hypericum ascyron var. *longistylum*

オトギリソウ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 IB

種
子
植
物



丘陵地や低山地の草原に生える多年草。全草無毛。茎は直立し、高さ50～100cm。葉は披針形^{ひしん}、全縁で無柄。花期は7～8月で、茎の先に径4～6cmの大形の黄花が咲く。花柱は長さ13～18mm（トモエソウは柱頭とともに6～8mm）。大陸系遺存植物^{いそん}で、県内では主として火山地域に産する。生育地は点在し、個体数も少ない。草原の土地開発や植生遷移による環境変化で、絶滅の危険性が高くなっている。母種のトモエソウを含む。

（写真：辻 寛文 文：荒金正憲）

県内分布 玖珠丘陵地・山地，九重火山群，由布・鶴見火山群，(祖母・傾山地)

分布域 九州（熊本・大分・宮崎）

朝鮮半島，中国（東北部），蒙古，アルタイ，ダフリア